

1-2

主題 施設介護サポーターとの協働

地域ネットワーク

副題 利用者が安全で安心した生活を送るために

施設介護サポーター

研究期間 24ヶ月

事業所 特別養護老人ホーム・吉祥寺ナーシングホーム

発表者：熊谷 恵子（くまがい けいこ）

アドバイザー：

共同研究者：多沢 里美（たざわ さとみ）

電 話 0422-20-0869

メール kjjshigeta@kichijoji-home.com

FAX 0422-20-0806

URL http://www.kichijoji-home.com/

今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

社会福祉法人至誠学舎東京を母体とし平成6年12月より事業を開始しています。入所50名、短期入所3名の施設です。デイサービス、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所が併設されています。

《研究前の状況と課題》

「施設介護サポーターとは：平成20年度から東京都がモデル的に実施する新規事業。5区市町村で実施」

食堂に集まる30名程度の利用者（重度認知症利用者を含む）を一人の職員が、レクリエーションを提供しながら見守りも同時に実施している現状

→異食や転倒等のヒヤリハットの繰り返し。
ご利用者に快適な環境を提供出来ないことで、その場を担当する職員の負担感が増大



解決する手段の一つとして

「介護サポーター導入開始」

→新たな課題

サポーター自身の求める活動と施設が期待する役割とのズレへの気付き

《研究の目標と期待する成果》

- ① 認知症のご利用者にマンツーマンで介護サポーターに対応してもらうことで、ご利用者のペースに合わせた時間が過ごせるようになる
- ② 異食や転倒など、事故の起こる危険性を極力事前に察知し、防ぐことができる
- ③ 職員は、希望するご利用者に対して毎日レクリエーションを提供することができ、ご利用者の生活が活性化される
- ④ ボランティアはもとより、介護サポーターが入ることでサービスの透明性が保たれる



「これまで以上に利用者の生活の質が確保されると同時に、利用者の対応を介護サポーターに任せることで、施設（職員）が提供するサービスの質の向上にも繋がる。

また一定の成果があることで、ボランティア活動から介護サポーターに移行した人たちの自己実現や生きがいへと繋げることもできる」

《具体的な取り組みの内容》 介護サポーターの活動 ① 利用者の生活を支援するための活動 ・ 施設内外の清掃・シーツ交換 ・ 洗濯物の整理 ・ 車椅子の簡単な修理（パンク等） ・ 通院の付き添い ・ 配膳補助やお茶だし ② 利用者の生活を豊かにするための活動 ・ 話し相手・見守り ・ 趣味活動の企画・実施 ・ 散歩等の付き添い ・ 植木鉢花壇等の手入れ 【介護サポーターとボランティアの違い】 介護サポーターは事前に3日間の養成講座を受講し、高齢者介護に対する知識や技術を習得。ある程度の専門的な技術を必要とする活動を施設の実情に応じて提供。 元々は、ボランティアは施設の「利用者」の手助けをする側面が強く、介護サポーターはそれに加え、「施設のスタッフ」を手助けする側面を付加し、活動意義を強めたもの。 またボランティアは、活動する人の奉仕精神、自主性に任せる面が強く、それに対して介護サポーターは担当者の指示のもと、組織・系統だてて動いてもらうことを想定している。	《取り組みの結果と評価》 現在 30 名がサポーターとして活動している 活動内容 ・ シーツ交換 ・ 洗濯物の整理 ・ 配膳補助やお茶だし ・ 話し相手・見守り ・ 趣味活動の企画・実施 ・ 散歩の付き添い 日中、サポーターに徘徊と同時に異食のみられるような重度の認知症利用者とマンツーマン対応してもらうことで心配されるヒヤリハットの数が減少した。 また、サポーター主導によるレクリエーション活動の実施、ご利用者の話し相手を継続してもらうことで食堂に待機する職員の負担感の軽減に繋げることができた。 《まとめ》 現場では消極的だった介護サポーターの受け入れ。サポーター養成講座で何をやっているのか実は知らなかった。それでも「今日からサポーターです」と紹介される。昨日までのボランティアさんと何が違うの？ やっと現場でも受け入れ体制に突入し、養成講座の内容を知って、「サポーターの役割」について現場スタッフが意識。役割も理解するようになり安心して任せられるように。 その結果、利用者の生活も豊かになった。
《提案と発信》	まだまだモデル事業として試行錯誤の施設介護サポーターです。正直なところ、自分たちもやっとその理解ができてきた段階ですが、今では介護サポーターに頼る部分があるのが現実です。「施設介護サポーター」って良いですよ一言でいうのは簡単ですが、導入は難しいところもあるかもしれません。しかし、この機会に活動について知っていただき、それがご利用者の処遇向上に繋げるヒントとなれば幸いです。
【メモ欄】追加資料 有 無	